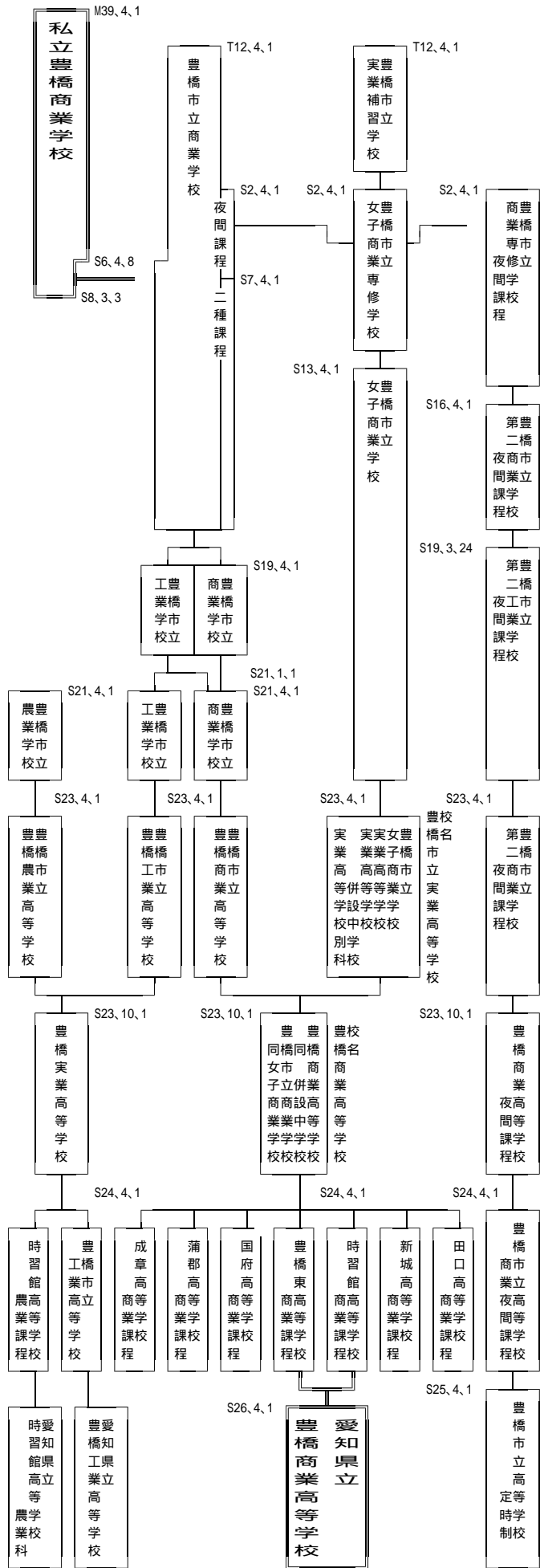


【 学 校 の 系 譜 】



明治39年4月1日 遠藤安太郎氏が私立豊橋商業学校を渥美郡豊岡村（現在の瓦町 不動院隣）に開校 本科34名、予科36名で発足

大正12年4月1日 豊橋市立商業学校（修業年限5年）が松葉町（市立図書館内）に開校
豊橋市立実習補習学校を舟原町に開校
（大正14年3月第1回卒業）

昭和2年3月31日 豊橋市立実習補習学校男子部を廃止（第3回の卒業式）

昭和2年4月1日 女子部を豊橋市立女子商業専修学校（修業年限3年）と改名
豊橋市立商業専修学校（夜間男子 東田町）を市立商業学校内に併設

昭和3年4月1日 豊橋市立女子商業専修学校を修業年限4年と改正

昭和6年4月8日 私立豊橋商業学校募集停止、2・3生は豊橋市立商業学校へ転学

昭和7年4月1日 豊橋市立商業学校二種課程開設（S7, 4～S19, 4 10回の卒業生500人）

昭和8年3月3日 私立豊橋商業学校、25回卒業式をもって自然廃校

昭和10年9月28日 実業学校令による女子商業学校へ昇格を申請し、9月に認可される

昭和13年4月1日 名称も豊橋市立女子商業学校となり市立高女（現旭小学校）跡に移転
修業年限4年の実業学校（豊橋市立商業学校と同格に昇格）

昭和16年4月1日 豊橋市立商業専修学校は豊橋市立第二商業学校（夜間）と校名変更

昭和19年3月24日 豊橋市告示第33号「豊橋市立工業学校及豊橋市立第二工業学校設置並びに豊橋市立商業学校及豊橋市立第二商業学校生徒募集中止の件、昭和19年3月24日付け文部大臣の認可ありたり」

" 4月1日 豊橋市立商業学校募集停止。豊橋市立工業学校・同第二工業学校を設立。東田町の豊橋市立商業学校を使用、校長は豊橋市立商業学校長が兼務する。市立商業学校2年生全員は、豊橋市立工業学校に転籍し、3・4・5年生は卒業まで市立商業学校生として授業を続ける。

昭和20年3月27日 豊橋市立商業学校4・5年生同時卒業。進学者及び軍関係入隊者を除き専攻科生として在籍する。

" 9月30日 豊橋市立商業学校専攻科卒業式

昭和21年1月1日 3学期より、豊橋市立工業学校1・2・3年在学中の者のうち商業学校希望者の当該学年への転校を認め、約半数が転校した。

" 4月1日 豊橋市立商業学校（修業年限5年）が復活、予備士官歩兵隊兵舎（現愛知大学）に移転 市立農業学校開校（市立女子商業学校と同居）
すべての実業学校が5年制となる

昭和23年4月1日 豊橋市立商業高等学校、豊橋市立工業高等学校、
橋市立実業高等学校、豊橋市立農業高等学校が発足

" 4月1日 新制高校は三年修業であるため女子商業学校のままで卒業を希望する者も特例として認めたので一時は、豊橋市立実業高等学校には豊橋市立女子商業学校・豊橋市立実業高等学校併設中学校も同時に併設されていた。さらに、四年修了を希望する者のために豊橋市立実業高等学校別科（後に愛知県立豊橋東高等学校別科と改称される修業年限一ヶ年）が併設され、三年併設中学校卒業生中27名が入学した。
豊橋市立商業高等学校でも同様であった。

" 10月1日 豊橋商業高等学校開校（市商高、市実業高を統合し男女共学に）
向山町官有地
旧制のまま卒業を認めたので、「豊橋商業高等学校」「同校併設中学校」「市立商業学校」「市立女子商業学校」の各校が存在した

" 10月1日 豊橋市立工業高等学校、豊橋市立農業高等学校を統合して豊橋市立実業高等学校と改名

昭和24年3月末 最後の卒業生を送り出し豊橋市立商業学校・同女子商業学校は長い歴史の幕を閉じた

" 4月1日 豊橋商業高等学校は、豊橋東・時習館・国府・蒲郡・成章・新城・田口等の各学校へ新設された商業課程に分散入学（就学）
豊橋東高等学校商業科第1・2回生は向山校舎（現在豊橋商業高校）で授業を受け、すべての諸行事は東高校（向山町西猿）で行われた。

昭和25年4月1日 夜間定時制の総合高等学校となり、校名を豊橋市立高等学校と改名

昭和26年4月1日 愛知県立豊橋商業高等学校を開校（向山町官有地）
愛知県立豊橋東高等学校・時習館高等学校の商業課程を統合し現在地（工兵跡地）に移転 1年5学級・2年4学級・3年5学級で発足